

【課題番号 3-3】

平成 30 年 3 月 27 日

革新的自殺研究推進プログラム 研究成果概要報告書（平成 29 年度）

自殺総合対策推進センター

センター長 本橋 豊 殿

(研究代表者)

機関名 : 東京医科歯科大学

所属 役職 : 国際健康推進医学分野 教授

氏 名 : 藤原 武男

I. 基本情報

1. 研究課題名

子供の貧困と自殺対策に関する総合的研究

Comprehensive research to address child poverty and suicide

2. 研究代表者（所属 役職 氏名）

東京医科歯科大学 国際健康推進医学分野 教授 藤原武男

Takeo Fujiwara, Professor, Department of Global Health Promotion, Tokyo Medical and Dental University

3. 実施期間

平成 29 年 10 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日

4. 研究分担者 なし

II. 成果の概要

日本の子どもの自殺の要因として自己肯定感の低さがあげられる。近年注目される子どもの貧困がその一因である可能性がある。しかし、その総合的な要因分析は十部分ではない。そこで足立区の小4、小6、中2に実施した「子どもの健康・生活実態調査」を用いて解析したところ、学校での友人関係、ロールモデルの存在、朝食欠食、親のメンタルヘルス、ネグレクト、教師との関係、サードプレイスが有意に自己肯定感と関連していた。これらの結果から、行政および学校関係者が直接子どもの自己肯定感を高める政策を実施することによって子どもの自殺予防につながる可能性が示唆された。

Low self-esteem is considered as a risk factor for suicide among children in Japan. Childhood poverty may be one of the factors related to low self-esteem among children; however, there are few comprehensive analyses of low self-esteem among children reported in the literature. Therefore, we analyzed the results of the Adachi Child Health Impact on Living Difficulty (A-CHILD) study and showed that self-esteem was significantly related to peer relationships, existence/non-existence of role models, breakfast skipping/non-skipping, mental health of the caregiver, child neglect/non-neglect, relationship with the teachers, and existence/non-existence of a place of comfort besides home and school. These results suggest that community and school could develop useful strategies to approach children directly to enhance their self-esteem, and thereby prevent child suicide.

III. 成果の外部への発表

- (1) 学会誌・雑誌等における論文一覧 なし
- (2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表（国内学会等 2件）
 1. 藤原武男. 「子どもの自己肯定感とメンタルヘルス-自殺対策との関連」、第76回日本公衆衛生学会総会、平成29年11月1日、鹿児島.
 2. 藤原武男. 「子供の貧困と自殺対策に関する総合的研究」、平成30年日本自殺総合対策学会、平成30年3月15日、東京.
- (3) その他の外部発表等 なし